

今回は、9月1日の『生物ポスター発表会』と9月8日の『防災講演会』についてお伝えします。

【生物ポスター発表会】 9月1日(木) 5・6校時

【1組】 今回のポスター発表では、プレゼンテーションのしかたを学ぶことができた。直前まで工夫を凝らした発表を準備したつもりだったが、他の班の発表を聞くことで自分の班と比較したり、聴衆の指摘から自分たちのポスターの欠点や発表の問題点を学んだりすることでいい経験をする事ができた。

【講評】 良かった点は、すべての班が工夫を凝らし、写真やポスターを用意し、最終的に時間内に終わっていたことである。ただ、実験対象の重さや長さを示したり、ポスターの字を大きくしたりすべきだった。この経験を活かしてさらにプレゼン能力を高めてほしい。

【優秀賞】 15班『イトマキヒトデの縄抜け ヒトデはどうやって縄を抜けるのか?』

「小さめのヒトデのほうが早く縄から抜ける傾向があるが、紐の巻き数は紐から抜け出す速さと関係しない。」



【2組】 自分たちでわかりやすいと思って工夫し作成したポスターでも、客観的に第三者の立場からすると、わかりづらいということを感じ知らされた。修正ポスターでは、級友や教員の助言を参考にし自己満足ではないものを作りたい。

【講評】 ポスターの中に表を用いることで聞き手の理解度が増す。しかし、表や図を用いているところまでは良いが、グラフを用いて説明を行ったり、ポスター内にグラフをつけたりした班が全くなかったことが残念であった。

【優秀賞】 24班『塩分濃度による海藻の光合成量の差』

「水道水、塩分1.5%、海水、塩分5.5%の液体のうち、3種類の海藻による光合成によってもっともpH値が高くなったのは海水である。よって、光合成に適するのは海水である。」



【3組】 様々な班のポスターを見ることができ、ポスター修正において参考になった。聴衆からの質問を受け、ポスターと発表の両方の改善すべき点を確認することができた。次の災害研究につなげていきたい。

【講評】 ポスターを見る人は、始めにタイトルを見て興味をもったポスターに期待を寄せて発表に臨むことから、ポスターのタイトルは大きく目立つようにしたほうが良い。また、グラフや表の色分けを工夫すると良い。

【優秀賞】 36班『ムラサキイガイの浄化と環境』

「米のとぎ汁に対するムラサキイガイの浄化作用の効果は、日光の有無や水温の違いによる影響を受けない。」

【4組】 ポスター発表が終わり一段落したと思えたのは一瞬だった。他者の批評を受けて、準備・練習不足などの後悔を覚えた。しかし、先生方の指摘から、ポスターの修正に意気込んでいる様子もあった。今回でポスター発表のことがわかったなどの前向きな声があった。

【講評】 初めての研究発表だったので、修正すべき点が多分にある。仮説と結論がねじれていたり、注目させたい文字を小さくしたりと、まだまだ詰め甘さが見られた。しかしこれは、次の災害研究へと繋がる良い経験だったのでないだろうか。

【優秀賞】 47班『カニの体格と脚力の関係～カニの徒競走から見たこと～』

「カニは、体格が小さいものほど素早い。」



【5組】発表は誠実であり、聴衆は真摯であった。しかし、科学的とは言えない実験方法から強引にこじつけた結論を導くなど、発表が論理的でないこと、質問に対する答えの準備が全くできていないため、十分な説明できなかつたこと、答えられなかつたことがあつた。

【講評】発表者・聴衆のどちらも真剣な態度で発表会に臨んでいたことが印象的だつた。しかし、発表者が原稿を読み上げるだけでその内容を理解していないこと、実験の設定条件や数値結果の検証のあいまいさ、言葉の使い方、文字のフォントやポイント、余白の使い方などのあらゆる観点からの修正・改善を求めたい。

【優秀賞】54班『タマキビが動き始める条件～液体のしぶきを浴びた時の動き～』

「海水、塩水(3.5%),雨水,水道水を吹きかけられた時の動きから,タマキビは液体の中に含まれる塩分を嫌がる。」



【6組】他のグループの様々なテーマの研究発表を聞き、それぞれの着眼点や実験を通しての考察を知ることができてよい経験となつた。発表を繰り返すうちに質問やアドバイスを元に改善を図っていったり、声の大きさや伝え方の工夫をしたりして聴衆に伝わりやすいような発表になっていった。

【講評】発表を終えるごとに発表の仕方が改善されていったのが良かった。ポスターのレイアウトやテーマ設定、伝え方といった点でさらなる工夫を要するが、これからの学術研究で大切にして欲しいことは「数値化」である。グラフや表にまとめるなどの努力をして欲しい。

【優秀賞】68班『ムラサキインコ貝の分布と生息』

「水につかっている時間が長いムラサキガイは、乾燥する環境を好まず、適度な湿り気があり波あたりの弱い穏やかな場所を好む。」

【7組】声が小さく早口の班が多かつた。また、ポスターのレイアウトが見にくい班もあつた。しかし、質問への受け答えが良かったり、着眼点が鋭かつたりする班が多かつた。今回の指摘を受けて、より良いポスターにしてほしい。

【講評】自分たちなりの独自の論理展開をしている班もあつたが、今回の発表を通して、その点を修正して良いポスターにしてもらいたい。さらに、文字が羅列してあつて見にくかつたり、原稿を見ながらポスターを丸読みしたりする点を改善して欲しい。

【優秀賞】75班『逃げろ、タマキビ！～塩分濃度と明るさ～』

「タマキビの全身を水道水、食塩水(20%),海水で浸した。すると、海水で浸されたタマキビが逃げ惑う。」

【8組】今回のポスター発表会では、多くの班が写真や表を使っていたり、原稿を見ずに発表したりと、とても聞きやすい発表だつた。ただ、同じようなテーマで実験している班がみられることから、さまざまな視点からテーマを設定し、実験することが必要であつた。

【講評】表やグラフを用いたり、ゴシック体で作つたりすることで、見やすくできていた。ただ、ひきつけるようなタイトルや配色、結論に至るまでの論理性に工夫の余地があると思う。それでも全体的に丁寧であつた。

【優秀賞】88班『イワガニの歩行』

「イワガニの歩行には、左右第二歩脚が必要である。また、イワガニの歩行は、岩場、コンクリート、砂浜の順で速い。」

【防災講演会】 9月8日(木)6校時

「災害を学ぶ～これから始まる災害研究に向けて～」と題して、東北大学災害科学国際研究所の安倍祥先生の講演会がありました。近年多発している災害の特徴や、災害に対しての国際的な取り組みの紹介など様々なお話を聴くことができました。特に、仙台一高の真下を通る「長町-利府断層帯」のお話はとても衝撃的でした。

今回の講演を聴いて、これから実践する「災害研究」のテーマについて、視点の幅をより広げることができました。

